



No.34

博物館だより

平成20年(2008年)度 夏季展示

千里の竹

平成20年7月5日(土)～8月31日(日)



(撮影 いずれも野口昭雄氏)

上の写真は昭和39年に撮影されたにぎり池付近の竹林です。北千里方面を望み、千里ニュータウン建設当初の姿が見えます。下の昨年5月に撮影された写真では、池が狭くなっていますが、竹林はむしろ青々と生い茂っている様子がわかります。今回の展示では吹田で使われた竹の道具や竹の文化について紹介します。



竹 と 市 民

竹は大切に育てられ、道具や建材、庭の植え込み、燃料など、日々の暮らしのなかでさかんに利用されていました。ところが現在は、プラスチックや安い輸入品にとってかわられ、放置された竹が野生化し繁茂して里山を荒らす、と悪者あつかいされるまでになっています。しかし、一方で金銭や便利さだけで、生活が支配されてはいけない、長く培った伝統をそう簡単に捨て去ってよいのか、という動きもおこっています。

美しい竹林とおいしいタケノコが名物だった吹田市では、ボランティアを中心にした活動が盛んですが、その内容は竹林の整備、竹細工、さらには美術や文学などのこころの領域にまで到る多彩なものです。今回の展示は、そのような想いを共有し活動する人たちの協力によってできあがりました。その活動の一端を紹介したいと思います。

千里竹の会



筍掘り

「吹田市の緑化公園室は毎年4月の第2日曜日、3カ所の竹林を開放して市民がタケノコほりをやります。私たちは日頃の経験をいかしてそのサポート役をひきうけています。ことしは、4月13日桃山公園のサポートをし、好天にも恵まれ、100組の人たちがやってきました。事前の整備、参加



竹のおもちゃ作り

者数を想定した区割り、掘り具、持ち帰り用の袋の用意など大変いそがしいのですが、大勢の人の喜ぶ顔を見ていると、疲れもいやされますね。グループの中には竹細工の得意な人がいて、竹とんぼなどの簡単な遊び具から精巧な機関車や飛行機などもつくっています」(木村凡之氏・大津忠明氏談)。

ソーメン流しや子供体験教室など、博物館ではいつも応援をお願いしています。

すいた環境学習協会 (SELF)

「いろいろ活動をしてますが、千里第二緑地を借り受け、荒廃した竹林と雑木林の整備・保全活動を行って4年目になります。力を入れたいののは、子供たちに竹やぶとはどんなものか、どう利用すればいいのか、今なにが問題なのかを、私たちの体験をふまえた知識と技術を伝えることだと思っています。そのために、小・中・高校の総合学習の支援をしたり、地域住民との交流イベントや小・中学生の体験学習・自然観察会も実施して、環境保護の啓発や実践をしています。子どもたちも熱心ですよ、将来もっとその数が増えればいいと思っています。そうそう、「竹の明かり」を毎



子どもたちの里山体験



幻想的な竹明かり

年秋にやっていますが、それも大変人気があります。」（前川光宏氏談）

竹林友の会

「山田地区は、昔はきちんと竹やぶが手入れされていて、今のような荒れた竹やぶはなかったようです。カゴなどの道具を作ったり、タケノコの話はあるので、手入れして上手に利用してたのでしょね。いまはモウソウが多いですが、マダケ、ハチクの3大有用竹の他にも、クロチク、メダケ、ヤダケとかクマザサやオカメザサまでたくさんの種類があります。竹林めぐりでは、それらを観察します。まず、博物館の正面階段と山田西第一公園にはオカメザサがあります。山田第三小学校の道をはさんで北側（私有地）にはモウソウ、光山



博物館正面階段のオカメザサ

寺裏の竹やぶの道（私有地）にはモウソウやマダケがみられます。山田伊射奈岐神社には少しですがハチクが植えられています。また、私たちの活動の場である千里緑地ではモウソウタケが見られます。普段は入れませんが、7月31日の「すいた竹林散策会」では、私たちの整備活動の成果を見ていただきます。」（川本節雄氏談）



千里緑地公園のモウソウ

里の竹やぶ文化塾

「私たちは若い学生やサラリーマンを中心にしたこじんまりしたグループで、竹に関する伝承を集めて比較研究しています。それぞれテーマをもって資料を集め2ヶ月に1度くらいのペースで集まって意見交換をしています。世界に目を向けると、中国や東南アジアに竹関係の話が多いですね。「竹取物語」や「雀のお宿」の原型とおもわれるものもあります。日本では、地域差に注目していますが、四国ではお化けの話があり、千里の民話は「竹やぶとキツネ」という組み合わせがあり、環境条件をよくあらわしていると思いました。研究成果のまとめ方の1つとして、研究成果をもとに「落語」の脚本をかいています。竹展のイベントとして8月3日（日）に、第二回繁盛亭大賞を受賞した林家染二さんに演じていただくことになりました。もし完成しなかったら妖怪万年竹という、有名な咄がありますので、それでやってもらいましょう。」（神谷昌岳氏談）



林家染二氏

カフェたんぽぽ

J R吹田駅近くの錦通商店街にボランティア喫茶カフェたんぽぽがあります。週3回（月、水、金）と月に一度の居酒屋は、格安の値段で楽しめ



集められた竹製品

る憩いの場で、商店街の振興にも貢献しています。今回の竹展では 特別展示室中央に私たちの身の回りにある（あった）竹の道具をあつめて、触れる展示をしますが、その資料集めに、一役買っていたいただけることになりました。「プレ展示」をやったら、「うちにこんなものがあったよ」とお客さんがもってくるのでどんどん数がふえました。一昨年の千里ニュータウン展の時、佐竹台の「サテライト」が大変なにぎわいだったことを思い出しました。

タケックス・ラボ

「竹のまち吹田」ならではの会社があります。タケックス・ラボ社長の清岡久幸さんは、昨年の日経ウーマンオブザイヤーにも選ばれた若い女性企業家です。モウソウチク抽出成分をつかった、抗菌剤、消臭剤をはじめ、竹を使った建材や断熱材などを商品として開発中です。竹職人だった父親に育てられたせいか、お話を伺っているとみなみならぬ竹への想いを感じました。市民の竹林整備活動の最大の悩みの1つは伐採した材の処理のようです。「その問題を解決できるビジネス・モデルを提起しています」という清岡さんのことばに大きな期待が持てそうです。清岡さんには7月6日（日）に「竹の未来を語る - 竹の活用について -」というタイトルで講演していただきます。



清岡久幸氏

ここで紹介した皆さんは竹の保全や整備、文化の研究などについて地道に活動しておられます。今回の「千里の竹」は多くの市民の皆さんの協力をいただきながら展示やイベントを多彩に企画しました。「吹田・千里」の竹のこれからを皆さんとともに考える機会としたいと思います。

（池田直子）

夏季展示「千里の竹」関連イベント

オープニングイベント 申し込み不要

七夕飾り

7月5日(土)～7月6日(日) 終日

笹に七夕の飾り付けをします。ご自由に参加ください。

こども劇かぐや姫

7月5日(土) 11時～11時30分

出演 南ヶ丘保育園年長組園児

場所／展示室ロビー。定員120名。

講演会 申し込み不要

「竹の未来を語る ー竹の活用についてー」

7月6日(日) 午後2時～3時30分

株式会社 タケックス・ラボ

代表取締役 清岡久幸氏

寄席 申し込み不要

「すいた竹取寄席」里の竹やぶ文化塾主催

8月3日(日) 午後2時～

出演 林家染二氏

竹にまつわる落語をします。

フォーラム 申し込み不要

「竹と市民」

8月30日(土) 午後1時30分～3時30分

すいた環境学習協会、千里竹の会、

里の竹やぶ文化塾、当館館長 小山修三

竹林の整備・保全や竹の文化研究している団体の活動の報告および意見交換会を行います。

体験イベント

竹炭体験

7月19日(土) 午後1時～

千里竹の会の皆さん

場所／北千里高校。定員20名。申し込みは

7月9日(水)必着。

竹のおもちゃ作り

7月20日(日)と8月16日(土)

いずれも午後1時30分～3時30分

千里竹の会の皆さん

定員40名。申し込みは7月10日(木)必着。

希望日記入のこと。

竹籠編み ーきよさんとその仲間ー

7月21日(月・祝) 午前10時～16時

中川清典氏ほか

博物館3階ピロティ。申し込み不要。

竹で遊ぼう

7月24日(木)と8月7日(木)

いずれも午前10時～11時30分と

午後1時30分～3時

竹林友の会の皆さん

場所／博物館3階ピロティ。定員各10名。

申し込みは7月14日(木)必着。希望日時記入のこと。

おでかけイベント

竹林見学会

7月17日(木) 午後1時30分～午後3時30分

千里竹の会の皆さん

竹林の整備・保護の活動を行っている千里竹の会の活動を見学します。

場所／千里東町公園。定員20名。申し込みは7月7日(月)必着。

里山・竹林自然観察会

7月22日(火)と8月21日(木)

いずれも午前10時～12時

すいた環境学習協会の皆さん

身近な自然に触れ、環境豆博士になろう。

場所／千里第二緑地。定員30名(小学3年生以下は保護者同伴のこと)。申し込みは7月12日(土)必着。希望日記入のこと。

すいた竹林散策会

7月31日(木) 午前10時～午後2時

竹林友の会の皆さん

市内の真竹、孟宗竹、淡竹などの竹林を散策したあと博物館を見学します。

定員30名。申し込みは7月18日(金)必着。

申し込み方法／はがき、またはFAXで、住所、参加者全員の氏名、年齢、電話番号を書いて博物館まで。問い合わせ・宛先は8頁を参照してください。

*最終ページにも関連イベントの案内があります。

さわる 五感の挑戦 PARTⅢ

平成20年 9 月13日(土)～10月 5 日(日)

「さわる 五感の挑戦」展示は今年で3回目になります。この展示に興味をもって、いつも熱心に見学に来ていただいているグループホーム「ヴィラコティ岸部」。介護福祉士の佐竹尚子さんに展示や博物館についてのお話を伺いました。



佐竹尚子氏

ーまず、「ヴィラコティ岸部」のことに
ついて伺いたいの
ですが、ここに入っ
ている方はどうい
う方ですか。

佐竹：ここは、グ
ループホームとい
って認知症の方を

対象に共同生活を送っていただいている小規模な施設です。認知症のレベルはいろいろありますが、特別なことはなく普通の家庭と同じように生活していただいています。

ー日頃余暇とか認知症の症状を軽減するために何か取り組んでいらっしゃいますか。

佐竹：歌とか動物（ドッグセラピー）、化粧やマッサージなどの美容を行っています。人によって興味の対象や効果のあるなしは違いますから、強制せず、ゆったりとやりたいようにやっただくようにしています。歌は演歌など特定のジャンルではなく、「ふるさと」などの童謡など誰でも知っている、あるいは歌詞を見なくても歌えるような歌を歌っています。

動物はドッグセラピーでさわらせてもらいます。動物が好きな人はもちろんですが、動物が嫌いな人でも見るだけなら大丈夫で、参加して結構生き生きとされています。

歌や動物は効果が高く、目に見えて変化があるわけではないんですが、本人の様子が変わります。夜よく休めるようになるとか、些細な変化かもしれませんが、それは大事なことです。

ー博物館へ見学にこられた時の事をうかがいたいのですが

佐竹：博物館へ行ったのは介護者を除いて5人ぐらいずつ一昨年と昨年いきました。博物館へ見学に行くとなると、ある程度元気でそれなりにコミュニケーションの取れる方になります。

私は直接付き添ったのではないんですが、昔三味線をしていた人はすぐに触ったそうです。

ー昔なじんだ物は抵抗なく受け入れるということでしょうか。

佐竹：そうですね。逆に触ってみたいと思うようですね。ただ、一人一人興味を持つものがちがいますから、むずかしいですが。

ー博物館はどのような風にすれば高齢者や認知症の方が楽しんでいただけるのでしょうか。

佐竹：高価な物とか、珍しい物を展示するより、見たことがある、昔懐かしい使ったことのある道具とかをおくほうがお年寄りに受け入れやすいんじゃないかと思

います。

ー長く使った物とか自分が子どもの頃使った物とかそういう物がいいいですね。おもちゃはどうだったんでし



三味線に触れて

ようか。

佐竹：お手玉とかお面とかやはり昔ながらのおもちゃがいいようですね。楽しみながらするというのがとてもいいと思います。ですから、お祭り事とかはすごく好きですね。雰囲気を楽しんでいるのがわかるんだと思います。

－一年目に来ていただいたときに、おもちゃで遊びたいので、座れるスペースがほしいとの要望がありましたので、2年目には畳2畳分の遊べるスペースを作りました。

関連イベントの和太鼓も見ていただきましたがどうでしたか。太鼓を演奏された野火の皆さんはお正月にこの施設に来るんですね。

佐竹：和太鼓も好きですね。この施設へ来てもらったときは、花笠音頭を踊ったり、獅子舞をしていただきました。



和太鼓の演奏を聴く皆さん

－和太鼓だと音も大きいし、身体にずーんと来るんですけど、それは大丈夫なんですか。

佐竹：日本の文化という大変ですけど、古くからあるものでなじみがあると思います。

－ロックのドラムとは違いますね。

佐竹：同じ音でもぐっと入ってくるんじゃないでしょうか。「あーっ」て、声をあげることがありますが、うるさいっていうんじゃないくて、「すごいっ」ていう思いなのではないかと感じます。

－最後に博物館に望むことは何ですか。

佐竹：博物館に望むことは、せめて博物館への送迎バスがあるといいと思います。博物館へ行ったときは普通乗用車に分乗して行きました。

あとは、「こんな展示をやっているよ」というPRをかねて、展示品を2, 3個でもいいから施設へ持ってきて出張サービス・出張博物館のようなことをしていただけるとありがたいです。そうすれば外出できない重症の方にも見てもらえます。以外とそういう人の方が効果が高いのかもしれない。どういう催しをやるのかと言うよりも、もっと身近に利用出来るという面を工夫してほしいと思います。

身体が元気な人には博物館に来ると言うことがいい刺激になるし、外出できない人には博物館から出向いて、何かをみせるということが出来るようになればいいですね。

－ありがとうございました。

「さわる 五感の挑戦 PARTⅢ」関連イベント

歴史講座

平成20年 9月20日(土) 午後2時～3時30分

「巫女 一女性宗教者の系譜一」

当館学芸員 滝沢幸恵

平成20年 9月27日(土) 午後2時～3時30分

「近世箏曲の芽生え

一筑紫流箏曲から八橋流箏曲へ一」

当館学芸員 池田直子

演奏会

9月28日(日) 午前10時30分～11時30分

和太鼓演奏会「心に響くふるさとの音」

演奏 郷土サークル野火

博物館3階横広場 申し込み不要 無料

講演会&ワークショップ

10月4日(土)

講演「つるつるとしなやかに、ざらざらとしたたかに一手ごたえのある生き方のヒント」

午後1時30分～2時30分

触生活体験ワークショップ

「手で考え、手で交わり、手で耕す」

午前11時～12時、午後3時～4時

講師 国立民族学博物館民族文化研究部准教授

広瀬浩二郎氏

※講演会は申し込み不要 講座室 先着120名

ワークショップは申し込みが必要。はが

きまたはファックスに希望時間と住所、氏

名・年齢・電話番号を書いて博物館まで。

定員午前、午後各15名。締切り9月19日

(金) 必着。

催し物のご案内

「千里の竹」関連イベント

博物館トーク

(各定員先着120名・聴講無料・申し込み不要)

7月12日(土) 午後2時～3時

「絵巻物にみる竹」 当館学芸員 池田直子

8月23日(土) 午後2時～3時

「竹と隼人とかぐや姫」 当館学芸員 藤井裕之

シンポジウム

(各定員先着120名・聴講無料・申し込み不要)

シンポジウム「千里をかける竹」

主催／総合地球環境学研究所

7月18日(金) 午後2時～

7月19日(土) 午後2時～3時30分

総合地球環境学研究所教授 佐藤洋一郎氏

鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸課長 川野 和昭氏

演奏会

尺八演奏会

8月24日(日) 午後2時～

演奏／松田孝治氏・中村清明氏

尺八の演奏会と希望者への体験指導を行います。

展示室ロビー。定員120名。申し込み不要。

体験イベント

竹の音楽

7月12日(土) 午後1時30分～3時

国立民族学博物館 准教授 寺田吉孝氏

皆で竹の響きを楽しもう。

茶釜を作ろう!

7月13日(日) 午後1時～3時

高山茶釜生産協同組合の皆さん

茶釜づくりの上編みという一工程を体験できます。できあがった茶釜はお持ち帰りいただけます。

定員30名。申し込みは7月5日(土)必着。

昔のあかりと竹のフィラメント体験講座

8月9日(土) 午後2時～3時

吹田東高校教諭 矢野 幸夫氏

吹田東高校教諭 塩見真知子氏

定員20組。申し込みは7月24日(木)必着。

おでかけイベント

竹林バス見学会

8月17日(日) 午前9時30分～午後4時

奈良高山茶釜の里と、エジソンの竹フィラメントで有名な石清水八幡宮を訪ねます。

定員40名。申し込みは8月7日(木)必着。

申し込み方法／はがき、またはFAXで、住所、参加者全員の氏名、年齢、電話番号を書いて博物館(学芸係)まで。

旧西尾家住宅(吹田文化創造交流館)イベント 七夕飾りの展示

7月2日(水)～7月7日(月)

積翠会お茶会

7月27日(日)・9月28日(日)

各10時～11時30分～午後1時～午後2時30分～
往復ハガキで各月10日までに参加者全員の氏名、電話番号、参加希望日時を書いて博物館(旧西尾家担当)まで申し込んでください。

定員各席7名。

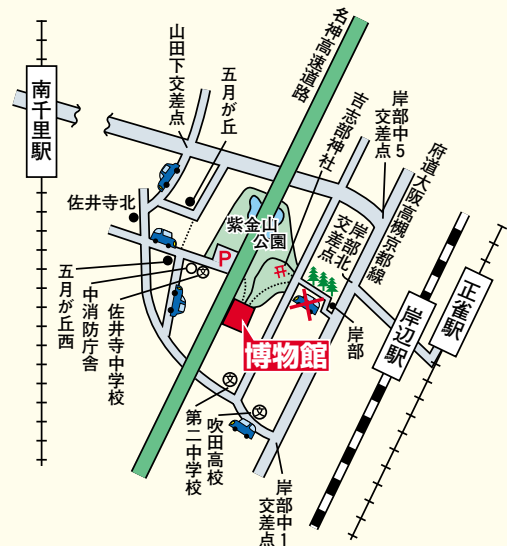
中秋の名月観月会

9月17日(水) 午後7時～

木乃下真市氏による津軽三味線コンサートを行います。

費用は1,000円。定員先着80名。9月1日(月)よりメイシアターでチケット発売。

交通案内



●JR吹田駅・阪急千里線吹田駅から

桃山台駅前ゆき、山田樫切山ゆきバス[佐井寺北]

下車徒歩10分

阪急山田ゆき・千里中央ゆきバス[岸部]下車徒歩10分

●JR吹田北口から

五月が丘南ゆきバス[五月が丘西]下車徒歩7分

●阪急千里線南千里駅から

JR吹田ゆきバス②③系統[佐井寺北]下車徒歩10分

●JR岸辺駅下車徒歩25分

●車での来館は佐井寺北、五月が丘方面からお願いします。

●開館時間
午前9時30分～午後5時
●休館日
月曜日、祝日の翌日
12月29日～1月3日
<http://www.suita.ed.jp/hak/>

吹田市立博物館だより 第34号
平成20年(2008年)6月30日発行
吹田市立博物館
〒564-0001
吹田市岸部北4丁目10番1号
TEL.06 (6338) 5500
FAX.06 (6338) 9886